

令和7年度 昭島市立昭和中学校 学校経営方針

令和7年4月1日

校長 渡部 尚

1 教育目標

夢への挑戦
～ 広げよう可能性
高めよう創造性 ～

2 教育理念

ハートフル・昭和
～ 全ての教育活動をハートフルに！ ～

3 目指す学校像

(1) 知・徳・体をバランスよく育む学校
(2) 人間環境・生活環境が整った安心・安全な学校
(3) 元気な挨拶や歌声が響く活気ある学校
(4) 家庭・地域とのつながりを大切にしている学校

4 目指す生徒像

(1) 自ら考え深く学ぶ生徒
(2) 自他ともに大切にできる生徒
(3) 自分を表現しつつ互いに認め合える生徒
(4) 社会性が身につけている生徒

5 目指す教師像

(1) 豊かな人間性を備え、生徒の範となれる教師
(2) 生徒と正面から向き合い、信頼される教師
(3) 授業力が高い教師
(4) 組織の一員として学校運営に貢献できる教師

6 令和7年度 重視する取組

(1) 「勇気づけ言葉」の活用
・「頑張らせ、勇気づけ、ほめる」ことでまわす。
(2) 「表現し合う活動」の一層の活発化
・教育活動全てで活発な表現と認め合いを重視。
(3) 「できて・わかって・楽しい」授業づくり
・授業スタンダードに沿った指導の実践。
・ICTを活用した効果的な指導の工夫。
(4) 「管理」と「自治」のバランスを重視
・指導の枠組みの明確化と共通理解。
・リーダーの育成から自治的な活動の推進。
(5) 「環境美化」の徹底
・UDの視点に基づく環境整備と維持。
(6) 「未然防止」への意識向上
・いじめ・不登校・事故等の未然防止に注力。

	基本方針	取組	取組の詳細
確かな学力	【学習指導】 1 生徒が「できて・わかって・楽しい」と感じる授業を行う。 2 個別最適な学びを意識した指導の推進。 3 「思考力」「判断力」「表現力」等を育成する授業を行う。 4 「自ら学び」「自ら考える」力を育成する。 5 読書活動を推進する。	1-① 毎時間のねらいや見通しを示した授業実践。 -② 昭和中授業スタンダードの定着。 -③ 生徒授業評価アンケートの実施。 2-① 可能な範囲での個別対応の実施。 3-① 協働的な学びを意識した課題解決型の授業実践。 -② 授業での効果的・積極的なICT活用。 4-① シラバスを活用した家庭学習の推進。 5-① 登校後の朝読書の定着。	1-① 毎時間、「目標」「流れ」「振り返り」を明示した授業を展開する。 -② 定期的にキャンペーンを実施し、学校全体の取組として授業規律の定着を図る。 -③ 年間2回（7月・12月）の生徒授業評価アンケートを活用し、改善を図る。 2-① 可能な範囲で個に応じた声掛けや教材の準備を行う。 3-① 考え方やヒントを示し、話し合い活動につなげる授業を行う。 -② 様々なアプリケーションを活用し、情報活用能力を高めながら学びの可能性を追求する。 4-① 定期テスト前などにシラバスに書かれた学習方法を確認させて自主的・計画的に取り組ませる。 5-① 図書支援員、司書教諭、図書委員会と連携して全校共通の取組を行う。
豊かな心	【生活指導】 1 全ての生徒が伸び伸びと生活できる環境をつくる。 2 生徒の自治的な活動から主体性を育む。 3 管理と自治の適切なバランスを保ちながら社会性を育む。 4 きれいな環境をつくり、維持する。 【道徳教育】【人権教育】 1 生徒の生き方や感性に働きかける道徳教育を推進する。 2 自他ともに大切さを認め、尊重される教育活動を推進する。 【いじめ防止の指導】【命を大切に指導】 1 いじめの未然防止と起こった時の早期対応を徹底する。 2 命を大切に指導を推進する。 【特別支援教育】【不登校対応】【教育相談】 1 特別支援学級（1組）の生徒が成長を実感する取組を推進する。 2 生徒の特性や家庭的背景に基づいた組織対応を推進する。 3 不登校を生まない取組を推進する。 4 不登校生徒への適切なかわりを推進する。	1-① 挨拶の励行。 -② 「勇気づけ言葉」の活用。 2-① 生徒のアイデアを活かした活動の活発化。 3-① 教職員間・生徒間で生活のルールの見直し・確認・徹底。 -② 生徒の相応しい言葉遣い・態度等の指導徹底。 -③ 集会時・集会への移動時の規律の徹底・維持。 4-① UDの視点での教室環境等の整理・整頓と維持。 1-① 22項目の計画的な実施。 -② 保護者・地域と連携した道徳授業地区公開講座の実施。 2-① 他者との違いを受け入れる指導の共通実践。 1-① 生活（いじめ）アンケートの毎月の実施。 -② SNSの使い方指導（4月・安全指導集会）の実施。 2-① ハートフル教室（命を大切に指導）の実施。 1-① 1組と通常学級の適切な交流（コミッティ）の推進。 -② 1組のリーダー育成を通じた自治的な活動の支援。 2-① 特別支援教室やSC・外部機関と連携した対応の推進。 -② 母子生活支援施設や児童養護施設との連携。 3-① 校内委員会での週単位の欠席状況等の確認。 4-① 家庭との連携と校内の支援体制の充実。	1-① 教師自ら積極的に挨拶を行い、生徒から教職員及び生徒同士でも活発に行えるようにする。 -② 否定的な言葉を使わず、日常すべての場面で「勇気づけ言葉」を意識し、活用する。 2-① 生徒会本部・各委員会の生徒、及び学級単位でのアイデアが生きる活動を推進する。 3-① 年度初めに生徒・保護者・教職員それぞれに、学校生活のルールや対応についての共有を図る。 -② 不適切な言葉（暴言）や態度には方針の下に毅然と対応し、家庭の協力を得ながら指導する。 -③ 学年・全校問わず、集会時には全教員で役割をこなし、移動開始から終了まで整然と行わせる。 4-① 教室・廊下・下駄箱などの整理整頓と清掃を重視し、きれいな状態で1日を終える。 1-① 道徳担当が年間指導計画を作成し、進行をコントロールする。 -① 原則として毎週、話し合い活動中心の道徳授業を実施する。 -② より保護者や地域の方々とともに考える機会を工夫し、設定する。 1-① 実態を把握して毎週のいじめ対策委員会と共有し、早期対応に当たる。 -② SNS上のいじめの防止と発生時の対応等を指導し、トラブルの未然防止に務める。 2-① 長期休業前に実施し、命の大切さを伝える。
健やかな体	【安全指導】【体育指導】【保健・食育指導】 1 安全の知識を高めて適切な行動が取れるようにする。 2 体力の向上と健康の保持・増進についての主体性を育む。 3 疾病や事故などの予防に係る対応と指導を徹底する。 4 万全なアレルギー対応による事故防止に努める。 5 栄養と健康についての理解を深める。	1-① 安全指導集会及び質の高い避難訓練と安全指導の実施。 2-① 保健体育科の授業の内容・質の向上。 3-① 感染症の防止や怪我・熱中症の防止などの指導の実施。 -② 外部人材を招いたがん教育の実施。 4-① アレルギー対応が必要な生徒の確認・共有の徹底。 5-① 学校栄養士を活用した食育の実施。	1-① 4月に生活安全・交通安全・災害安全の3領域についての基礎知識の指導を行う。 -① 地震・火災・不審者対応など、あらゆる想定の下で質の高い訓練を実施する。 2-① 元気アップガイドブックを活用し、体力の向上と健康を関連付けた授業を実施する。 3-① 感染症、怪我、熱中症など、教育活動下での感染拡大防止や事故防止の徹底を図る。 4-① アレルギー対応が必要な生徒を毎朝共有し、絶対に事故を起こさないようにする。 5-① 栄養士の給食時間の巡回による食育指導を適宜実施する。
輝く未来	【キャリア教育・進路指導】 1 3年間の系統だった生き方指導を行い、学習の成果を発表する。 2 個に応じた丁寧な進路指導を実施する。 【学校行事】【部活動】 1 自治的で成長につながる学校行事・部活動を実施する。	1-① 計画的で効果的なキャリア教育の実施。 -② 総合学習発表会の開催。 -③ 外部人材を活用した体験的な学習や講演会の実施。 2-① 進路指導における丁寧な全体指導と個に応じた指導。 1-① リーダーを育て、生徒の主体性を重視した活動の実施。 -② 外部人材を活用した効果的で無理が生じない部活動運営。	1-① 「職業調べ」「職業講話」「職場訪問」など、3年間の系統だった指導を実施する。 -② 学習の成果を発表するとともに、夢を描き、夢を語る会にし、地域・保護者に公開する。 -③ 細やかな事前の準備・指導が行き届いた職場体験学習（2学年）を実施する。 2-① 上級学校の受検（験）に向け、便り等を用いた細やかな情報提供を行う。 1-① 管理と自治を意識しつつ、生徒が主体的に取り組むようサポートする。 -② 外部人材を活用し、生徒の主体的かつ効果的な活動を支援する。
家庭・地域連携他	【家庭・地域との連携】【開かれた学校づくり】 1 家庭・地域とつながった教育活動を推進する。 2 小・中・高、福祉施設との連携を推進する。 ○ 校内研修・・・都情報活用能力研究指定校（R6・R7）として、日常的にタブレット端末の様々な活用を工夫し、実践するとともに発表に向けた準備に取り組む。 ○ ICT・・・タブレット端末の活用について、アプリケーションの活用を工夫すると共に、管理や使用上の注意点などの徹底を図る。 ○ 英語関連・・・公費による英語検定、英語スピーキングテスト（E-SAT J）、英語村実践活動などの取組を英語科だけでなく学校全体で取り組む。	1-① 学校運営協議会の意見を取り入れた学校運営の実施。 -② 学校ホームページ・学校だより・学年だよりなどの充実。 -③ PTAと連携した活動の推進。 2-① 授業や部活動での生徒・教員の積極的な交流の実現。	1-① 学校行事や授業を公開し、日々の取組に基づく外部評価を学校経営に生かす。 -② 学校だより・学年だよりを適宜発行し、メッセージ性のある内容を工夫して発信する。 -③ 保護者会（4月）で学校ダイジェストを配布し、保護者との共有を図る。 2-① 地域性を活かし、小学校だけでなく、昭和高校との交流をより行っていく。

目指す教職員組織

1 あたたかな雰囲気の中、助け合える組織。
2 仕事にやりがいを感じ、成長できる組織。
3 事故やハラスメントが起こらない組織。
4 ライフ・ワーク・バランスが図られた組織。

取組

1-① 有機的に回るPDCAサイクルの実践。
2-① 校内OJTの意図的・計画的な実施。
3-① 机上及び公共スペースの整理整頓。
-② 事故やハラスメントの理解に向けた研修の実施。
4-① 仕事効率化による超過勤務時間の削減。

取組の詳細

1-① 学年会を概ね週に1回程度実施し、各クラスの生徒の様子や総合的な学習の時間、道徳、学活、学年行事などの共有を図る。
2-① 3年次までの教員に、教科・分掌ごとに指導教員をつけて育成を図る。
3-② 年間3回の服務事故防止研修を実施するとともに、特に「体罰」「不適切な言動」「紛失事故」を根絶する風土をつくる。